

会見日時 令和8年8月6日 金曜日 15時30分～16時00分

会見場所 県庁第二特別会議室

会 見 者 玉城知事

【広報監】：本日は知事より冒頭発言が2件、発表事項が2件ございます。知事の発言の後、冒頭発言と発表事項に関する質問をお受けいたします。それでは知事、よろしくお願いいたします。

【知事】：ハイサイ、グスーヨー、チューウガナビラ。皆様お疲れ様でございます。
明日が台風の影響で定例記者会見が開催されないというため、今日に繰り上げさせていただきました。ご協力いただきましてありがとうございます。では、冒頭発言からお伝えいたします。

【知事】：まず、台風第13号への警戒についてお伝えいたします。台風第13号は、本日8月6日から9日頃にかけて強い勢力で沖縄地方に接近し、大東島地方は本日の夜遅く、沖縄本島地方では明日7日の昼過ぎに、最接近する見込みとなっております。また沖縄本島地方、大東島地方では、線状降水帯の半日前予測も発表されており、大東島地方では6日夕方から7日明け方にかけて、沖縄本島地方は7日明け方から8日朝にかけて線状降水帯が発生し、大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性もあります。台風の進路等によっては、宮古島地方及び八重山地方でも暴風となる恐れもあります。暴風や大雨、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、高潮などに警戒が必要です。また、台風が通過した後も停電、断水、物流の停滞などが発生する可能性がありますので、食料や飲料水、生活用水の準備や停電対策等の事前の備えをお願いいたします。県民の皆様、沖縄にいらっしゃる皆様には、早めに事前の備えを実施していただくとともに、気象庁が発表する気象情報や市町村が発表する避難情報等に十分注意していただき、くれぐれもご留意くださいますようお願いいたします。

【知事】：次に、原爆の日を迎えるにあたってのコメントを出したいと思います。

8月6日は広島に、そして9日は長崎に原爆が投下された日であり、両日は今年で81回目の原爆の日を迎えます。原爆で亡くなられたすべての方に哀悼の意を表するとともに、今なお被爆の後遺症に苦しんでいる方々に心よりお見舞いを申し上げます。

私は、昨年12月に恩納村の核ミサイル「メースB」発射基地跡を視察し、かつて県民が核兵器の恐怖と隣り合わせの生活を強いられていた現実を目の当たりにしたことで、改めて、核兵器廃絶を訴える必要性を実感いたしました。そうした思いを胸に、6月23日の慰霊の日に行った今年の平和宣言では、恒久平和とその過程として核兵器廃絶を目指すことを、取り組むべき

責務として訴えました。そして県では現在、今後の平和行政の指針となる「恒久平和に貢献する沖縄ビジョン（仮称）」の策定手続きを進めており、その中においても、核兵器廃絶に向けて取り組んでいくことを明確に示す所存であります。沖縄県としましては、今後とも、独自の地域外交を展開する中で、平和を希求する沖縄のこころを発信することにより、地域の緊張緩和や信頼関係の構築を図り、世界の恒久平和、核兵器廃絶に貢献していくことを目指してまいります。よろしくお願いいたします。

【知事】:それでは、発表事項に移らせていただきます。

まず、令和7年度観光収入の公表についてお伝えいたします。記者の皆様にはお手元の「令和7年度の観光収入」をご参照ください。観光収入は1兆747億円、対前年度比927億円、9.4%の増となり、3年連続で過去最高を更新し、今回初めて1兆円を突破しています。観光客1人当たりの県内消費額は、国内客が104,477円、対前年度比で0.4%の増、外国客（空路）が105,222円で5.2%の減、外国客（海路）が24,055円で16%の増となりました。なお、観光客全体の1人当たり県内消費額は98,281円で、対前年度比0.4%減となっております。2枚目以降につきましては、令和6年度実績等との比較や、国内客、外国客の空路・海路ごとの県内消費額などを記載しております。詳細についてはご確認ください。観光収入の増加の主な要因は、入域観光客数が995万人から1,094万人へと増加し過去最高となったこと、及び国内客の1人当たり県内消費額も過去最高となったことなどによるものです。今年は、首里城正殿の完成と一般公開を11月に控え、国内外から更なる注目が集まるものと期待しています。沖縄県では、世界から選ばれる持続可能な観光地を形成するため、都道府県としては初となる「サステナブル・ツーリズム宣言」を発出し、旅行者・観光客と地域・住民が価値の共有を図り、人や社会、環境などに配慮した沖縄観光の実現を目指しております。今後も地域の観光課題解決の取組等、各種施策を着実に展開し、世界から選ばれる持続可能な観光地の実現に取り組んでまいりますので、国内外の皆様にごひ沖縄観光にお越しいただければと思います。よろしくお願いいたします。

【知事】:それから、明日8月7日から沖縄県公式ホームページにおいて「AIチャットボット」の運用を開始します。このAIチャットボットは、画面上で会話をするように質問を入力していただくことで、その質問に対する回答を同じように会話形式で回答するものです。では実際にホームページの画面上でチャットの流れを紹介したいと思います。

これは沖縄県のホームページの画面なんですが、画面の左隅に、マークが出てきます。これが沖縄県AIチャットボットのマークです。これが、県のホームページの左下の隅に、スクロールアップしても必ずここに定位するようになっていきますので、ここから入っていただきたいと思います。 それではチャットボットの、これが入り口ですね。で、ここに知りたいことを入

力していただくのですが、携帯からかけてらっしゃる方はマイク機能がオンであればそのまま話していただいて、ここに入力することになりますので、そのような効果もぜひお試しください。では、「子育て支援について教えてください」と入れてください。はい、これで送信いたしました。今、(AIが) 探しています・・・ホームページの中から出てきました。「沖縄県の子育て支援について検索結果でお知らせいたします」ということで、メニューが出てきます。で、案内先も出てきます。こうやってどんどん出てきます。これはすべて、県のホームページの中にアップされているものが情報として上がっていきます。そしてそれぞれクリックしていただけるとそのページに・・・では「養育費・親子交流」。というように2クリック、これですぐあなたが探している情報にたどり着くことができますので、このAIチャットボットぜひ活用してください。さて、次に今度はちょっと違うパターンを見てみましょう。「保育園の空き状況を教えて」と入れてください。さあ、送信。(AIが) 考えてます・・・というように出てきました。「保育園、保育所の空き状況については検索結果から確認できませんでした。」これは、保育所の空き状況や入所申込は「お住まいの市町村の窓口が担当している」ということで、直接お住まいの市町村にお尋ねくださいという風に出てくるのですが、もしくは沖縄県の子育て支援課にぜひご相談くださいというように、参考までに子育て支援課の番号も出てきました。なお、市町村別の待機児童の推移が県のページで確認できますので、これで確認してみましょう。待機児童の推移ですね。PDFのグラフも表示することができますので、最新の令和8年、こういう風に速報値が出てきます。こういうように人数、待機児童の数、まだ0にはなっていないのですが、今のところ待機児童数は78人が待機の状態ですよというようになっています。このように、AIチャットボットを活用すれば沖縄県のホームページに入っている情報を検索することができます。24時間いつでも問い合わせができるようになっているのですが、合わせて皆様からの質問内容を分析することで、ニーズの高い情報や不足している情報を把握し、随時ホームページ上にその情報を追加するなど、情報のさらなる充実に努めていきたいと思っています。今後も、デジタル技術を有効に活用しながら、県民の皆様にとってより分かりやすく、使いやすいホームページ作りと利便性の向上に努めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。発表事項は以上です。

【広報監】：それでは、冒頭発言と発表事項に関する質問をお受けします。まず県内幹事社お願いいたします。

【記者】：発表事項の中の観光収入なんですけど、収入自体は上がって過去最高になっているんですけども、1人当たりの消費額は減っていると。要因を見ると、外国客（空路）の1人当たりの消費額が5.2%減っているのですが、何かこの要因として分析できているものはありますか？

【知事】：外国空路客の1人当たり県内消費額が低下した理由ですけれども、主な理由として、中国や香港からの観光客1人当たりの県内消費額が減少したことが、主な原因だろうと考えています。当然、中国の景気の減速などが、旅行マインドにも影響しているということが言えると思います。ちなみに令和6年度、中国からの観光客の1人当たり県内消費額は135,803円でしたが、令和7年度は122,433円と、減額になっています。香港も同じように、令和6年と7年を比べると、令和6年度が139,943円、令和7年度は121,137円で、18,800円ぐらい減額になっている。そういうことが要因だろうと見ています。

【記者】：中国自体の経済の停滞というのもあると思うんですが、一方で高付加価値化、沖縄で消費してもらえるような沖縄側の魅力を高めるという部分はできているという風にお考えでしょうか。

【知事】：首里城が11月に正殿がお披露目になりますと、そのようなまた観光へのいい影響も出てくるということは期待しておりますが、いずれにしましても、中国国内の景気の動向はなかなか我々も先行きを読むのも非常に厳しいところもありますので、そこはできる限り、沖縄県からはその観光の魅力を発信していくことに頑張っていきたいなと考えています。

【記者】：ありがとうございます。

【広報監】：次に県外幹事社お願いいたします。

【記者】：特にありません。

【広報監】：それでは、幹事社以外の記者の皆様から質問をお受けいたします。質問はありますか？

【記者】：観光収入の関連なんですけれども、まず1点目で、1兆円を超えたことに対する知事の率直な受け止め、評価をお願いします。

【知事】：沖縄の観光の魅力を発信するということは各方面からも行われておりますけれども、やはりブランド戦略の多様な市場に対応した効果的な誘客活動、これが繋がっていることと、それから、いわゆる自然、歴史、文化、伝統などの沖縄のソフトパワーに非常にその魅力を持っていいただいているということも大きいのではないかなと思います。

【記者】:先ほど国内は増えていて、外国の1人当たりの消費額が減っているという話がありましたが、外国が減っている要因については、先ほど幹事社の質問でお答えになっていたかと思いますが、国内の方が伸びている、これについては何か要因分析などございますか。

【知事】:やはり新型コロナウイルス感染症流行前の、平成30年度と例えば比べてみますと、比較的消費単価の高いリゾートホテルを利用するお客様が増えていること、あるいは夫婦や子供連れ、家族との旅行割合が増えている、人数が増えたユニットで旅行していただいているということですね。そういうことを考えると、今の円安という状況から旅行を楽しもうという場合には、その非日常的な感覚で北海道や沖縄が、その選択肢になりやすいということもその背景にあるかと思います。

【記者】: すいません、もう1点なんですけれども、引き続き観光収入の上昇を目指していくのかなと思うんですけれども、その上で、どういった課題があるか、どういった取組を進めたいというところ、狙いがあればお願いします。

【知事】: 当然、持続可能な「サステナブル」、それから旅行する方々にも倫理観や責任感を持っていただいて環境に配慮する「レスポンシブル」、それから誰もが楽しめる「ユニバーサル」、そういうようなツーリズムの形態をたくさんの楽しめる方法として、ツールを展開していきたいと思っていますし、それから、これはできれば県内の方々に利用していただきたいのは、「ラーケーション」(※知事が「ワーケーション」と発言したものを最後に訂正)。子供たちと一緒に家族で過ごす時間を作っていただくために、ラーケーションも利用していただきたいと思いますし、そのラーケーションを導入する企業にも、また県の支援もしっかりと対応していきたいというように考えています。

【記者】: ありがとうございます。

【広報監】: 他に質問はありますか？よろしいでしょうか？それでは次に、発表事項以外の質問に移ります。県内幹事社お願いいたします。

【記者】: 2点お伺いしたいと思いますが、1点目は、加盟社から寄せられた質問なんですけれども、辺野古沖の船の転覆事故に関して、一部報道機関が辺野古漁港に設置された防犯カメラ映像を報道に用いることに対して、知事は従前から問題視されています。ご指摘するように、防犯カメラ映像は捜査資料として用いるものですが、今回の事故に限らず、事件事故の報道

においては、報道機関が防犯カメラ映像を入手し、報道に用いることは広く行われているところです。知事の認識が今回の事故に限ったものなのか、あるいは事件事故一般の防犯カメラ映像の使用を疑問視しているものなのかをお聞かせください。

【知事】：事故の解明はやはり警察や海上保安庁による捜査、それから第三者員会等による公正な調査手順に基づいて行われると思います。そのために、例えば私が、知事が、「報道機関が入手・編集した映像」を確認し、何らかのコメントを発出するということについては、行政として何らかの余断を与えたり、あるいは進行中の捜査や調査に影響を及ぼすことを、私はまずそれを懸念しています。ですから、例えば亡くなられた方がいる場合には、そうした映像の公開もご遺族のお気持ちにも配慮する必要があるのではないかと私はそのようにも考えておりますので、今回の映像公開のタイミングが、捜査状況及びご遺族のお気持ちを踏まえたものであったのか、それもなかなか私の力で汲み取りきれなかったということもあったものですから、映像公開のあり方について疑問を述べたものであり、それが報道機関による映像公開自体について疑義を呈したというものではないということです。

【記者】：ありがとうございます。もう1点お願いします。6月定例会で、ワシントン駐在事務所問題を受けて、知事の給与減額の議案を提案されましたが、反対多数で否決されています。百条委員会でも、責任は知事取るべきだという指摘もされているのですが、これに対する今後の対応についてお聞かせください。

【知事】：令和8年6月議会において、ワシントン駐在を巡る一連の経緯に関して、私への問責決議が提出され、賛成多数で可決されています。問責決議においては、行政運営への最終責任は個々の職員ではなく、県政を統括する知事が負うべきであるということ、また、給与の減額のみをもって政治的責任を尽くしたとすることなく、県民の理解と納得が得られる責任の問い方について改めて判断すべきこと、一連の沖縄県ワシントン駐在問題にかかる政治的及び道義的責任は極めて重大であることなどが述べられています。このワシントン駐在を巡る一連の経緯において、法定の手続きが行われず、不適正な事務処理が行われ、また様々な疑念を招いたことは、沖縄県として重く受け止めております。また、給与の減額のみをもって政治的責任を尽くしたとすることではなく、私は県知事として、再発防止を徹底するという決意を示すということから、これまでに2度、その減給条例を出させていただいたという経緯で、それで何らかの幕引きを図るというように意図したものではありませんでした。今後の対応については、現在、百条委員会の報告書の内容を精査中でありますので、その精査の結果を踏まえて事実関係に基づいて改めて検討してまいりたいと考えています。

【記者】：例えば、臨時議会を開いて改めて議案を提案するなどの対応というのは考えられますでしょうか？

【知事】：これは問責決議に対しての対応ですか？

【記者】：給与減額をして覚悟を示したいというお考えがあったと思うのですが、それが否決されて、また改めてでもやりたいというお考えがあるかどうかという点です。

【知事】：給与の減額については、日程などが非常に次の任期まで厳しいと思いますので、給与減額の提案というのは非常に厳しいのではないかと。日程的には。ただ、百条委員会の結果を踏まえ、事実関係に基づいて、もし必要であれば改めて検討していきたいというように思います。

【記者】：ありがとうございます。

【広報監】：続いて県外幹事社お願いいたします。

【記者】：安和のダンプカー事故の案件なんですけれども、警察の方が書類送検をして、信号設置などを決めたと聞いております。危険性が指摘される中で、警察としては具体的な現実的な対応を取ったと言われているんですけれども、一義的にはそういう抗議活動の実施主体が安全を確保すべきだというのは承知しているのですが、県民の生命を預かる行政として、これまでの対応が十分だったかどうか、その認識を改めて教えてください。

【知事】：それは、どの事故・事件に対してのご質問ですか？

【記者】：安和で起きたダンプカー事故の件です。

【知事】：安和栈橋の出入口付近においては、沖縄防衛局、事業者と協議の上、道路管理者である県が、例えば街路樹の剪定の実施、それから視認性の向上を図るラバーポールなどによる安全対策を図ってきております。県は道路管理者として、道路法に基づいて必要な安全対策を講じてきているものと、これまでも議会でもそのように答弁をさせていただいておりますし、引き続きその安全管理についてはしっかりと行ってまいりたいと考えています。

【記者】：「十分だったかどうか」という点については。

【知事】：何をもって十分とされるかということも、色々とお考えはあると思いますが、県としては道路管理者として道路法に基づいて必要な対策は取ってきているものと考えております。

【広報監】：それでは幹事社以外の記者の皆様から質問をお受けいたします。質問はありますか？

【記者】：県知事選と、投開票日が近い那覇市長選の情勢について伺います。現職の那覇市長を巡っては、県政与党の立憲民主党と社大党の2党が推薦を決めておりますが、那覇市長はこの県知事選で自民党が支援する候補の支援を明言しているほか、自民党と極めて近い形の報道も目立つ部分がございます。これまで、那覇市長選の推薦については、県政与党「オール沖縄」として自民系候補に対峙する形で「セット戦術」を取ってきた中、今回はその構図が異なる形になることが想定されますが、両選挙で支援する政党の枠組みが異なるということについて、県知事選に与える影響について知事はどのようにお考えでしょうか、ご見解を伺います。

【知事】：今回の県知事選挙は、これまでの政党の構成事情や、国政における高市政権の誕生に至るまでの様々な動きなどを踏まえると、過去2度の県知事選挙より一段と厳しさが増していると、私や私の後援会はそのように認識しております。ですから、やはりお一人でも多くの方々にご支援をいただきたいという考えから、特に多くの県民の方々から、私たちも一有権者としてそういう活動に参加できるような枠組みにしてほしいということもあって、県民党的な、「デニー党」的な、そういう体制から始めさせていただいておりますが、その体制の中には、従来の私を支援していただいていたほとんどの政党の方々も枠組みとしては参加をしておりますので、県知事選に対してはそういうしっかりとした体制を構築して臨んでいただけるものというように私は期待をしています。

【記者】：基本的に選挙日も違いますので、那覇市長選において県政与党の政党が、ある種自民党候補に対して推薦を出したということに関しては、特段知事選には影響はないであろうと、知事の支援母体というのは何ら影響を受けていないので、それは影響はないだろうというお考えでしょうか。

【知事】：この間、色々な会議に出席させていただいてますけれども、その会議の顔ぶれや、それから私の出馬会見や、これまでの取組にもしっかりと全力で対応していただいておりますので、そこはぶれることはないというように安心しています。

【記者】：ありがとうございます。

【広報監】：他に質問はございますか。

【記者】：今の関係で、いま知事から「これまでの政党の事情や高市政権誕生に至るまでの動きを踏まえると、これまでと比べても一段と厳しいものである」というご発言があったと思うのですが、もう少しその、どういう国政の変化などを踏まえると、過去2回とは違うと感じられているのか伺ってもよろしいですか？

【知事】：いわゆる、元々1つの政党だったところが分離をして新しい政党を結成したけれども、なかなかその成果が出せなかったこと、そして、これまでどちらかというと自主投票に近い形で私を応援していた政党も、今回は相手候補を応援するというような状況になっていること等々、やはりその厳しさは4年前、8年前とはかなり様相が違うというように私は非常に危機感を持っています。

【記者】：ありがとうございます。

【広報監】：すいません、そろそろお時間でございます。最後1問だけお受けいたします。

【記者】：同じく知事選の関係でお伺いします。すでに様々な争点が出ておりますけれども、その中で那覇軍港の浦添移設については、予定候補者の中では反対を訴えた上で今回争点になると言う方もおられます。改めて浦添移設への知事の対応方針について教えてください。

【知事】：港湾計画の改定によって那覇港の機能的な方向性、それから浦添埠頭地区の計画なども合わせて表明されております。なお、那覇軍港については、早期の返還を求めているところではありますが、移設協議に関しては、移設協議会の中でその検討が図られるものというように認識をしております。なお、沖縄県からは多くの県民の皆さんからの意見を添えて、いま環境影響評価の手続きの中でもそのような意見書を提出しておりますので、不断の取組についての注視を続けていきたいというように考えています。

【記者】：そうすると、手続きの進行次第では、次の知事の任期の間に埋め立ての承認の判断を迫られる可能性もあるかと思うのですけれども、それを踏まえて事前に明確な姿勢を示すのは難しい、そういう理解でよろしいでしょうか？

【知事】：はい。この任期までの間は、現況の環境影響評価等での要望について、それをしっかりと実現するよう、実行するよう求めてまいりたいというように考えています。

【記者】：ありがとうございます。

【広報監】：申し訳ございません。お時間でございますので、これで本日の記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【知事】：訂正を1つお願いいたします。私、先ほど「ワーケーション」という言葉を使いましたが、ワーケーションは仕事を沖縄で、バケーションを交えながら仕事ができるのがワーケーション、私が言いたかったのは「ラーケーション」ですね。家族と一緒に過ごす「ラーケーション」でした。訂正してお詫びいたします。失礼いたしました。

ニフェーデービタン、ありがとうございました。お疲れ様でした。